

学校教育目標	「自立」「共生」そして「挑戦」 人と人との関わりの中で、自ら学び自ら成長しようとする態度や行動を通じ、自信をもって未来を切り拓いていく生徒を育てます			
	(知) 主体的に考え、意欲的に学ぶ生徒 (徳) 自分を大切にし、人を思いやる生徒 (体) 自ら鍛え、心身ともにたくましく生きる生徒 (公) 自然、地域、社会を愛し、より良くする為に他者と協働できる生徒 (開) 進取の精神を持ち、夢や目標、新たな価値に挑戦できる生徒			
学校概要	創立 52 周年	学校長 山崎 裕之	副校長 安永 基治	2 学期制 一般学級: 12 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 464 人 主な関係校: 下和泉小、中和田南小、伊勢山小、横浜深谷台小、中和田小			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	泉が丘中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
①自己を理解し、自分の良さを発揮できる ②他者を理解し、共に高め合える ③多様性を認め、信頼関係を築ける ④自ら目標を定め、達成に向けて行動できる	下和泉小学校 中和田南小学校	○人と関わる中で自己有用感を高め、他者の良さに気づく子供 ○これ迄の学びをこれからの学びに活かすことができる子供 ・校内授業研で「言語活動の充実と自他の発表を通じた学び合い」を推進。 ・地域や保護者と共に、「人とかかわる教育機会の創出と生徒の参加」を推進。 ・ブロック教務主任会で、目標達成評価の機会として相互の授業参観を設定。 ・児童生徒の指導や特別支援教育、ユニバーサルデザインの情報交換を実施。

中期取組目標	教職員、保護者、地域、関係機関等あらゆる教育資源を活用した活気ある学校作りを目指します。 ① 授業など教育活動の充実を通じ、主体的に学び、自ら課題解決に向け、意欲的に取り組む態度を育てます。 ② 様々な人との関わりを通じ、お互いに認め合い、尊重しながら豊かな人間関係を築く態度を育てます。 ③ 自ら取り組む健康増進の為に行動を通じ、生涯に渡り、心身共に健やかに生きるための資質や能力を育てます。 ④ 地域や社会と接する機会を通じ、自分の役割や働く事の意義を理解し、他者と協働する態度を育てます。 ⑤ あらゆる教育機会を通じ、自己有用感を高め、自信をもって将来の夢や目標を目指す態度を育てます。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①個別支援学級及び全教科ごとに指導主事を招いて研修を行ったり、校内授業研究週間を設定するなどして生徒の基礎学力の定着を目指すとともに教員の授業力向上を図る。 ②市学力学習状況調査の分析チャートを有効活用して、生徒の実態に即した教科指導を行う。
担当	学習指導部	
徳	豊かな心	①全職員がローテーションで道徳の授業を行うことで、道徳への意識を高め授業力の向上を図る。 ②すべての教育活動で、学校教育目標「自立」「共生」そして「挑戦」を意識させながら生徒の育成を図る。
担当	人権道徳指導部	
体	健やかな体	①全ての体育活動において、自己の課題に取り組む姿勢や生涯スポーツへの意識を高める。 ②家庭科の年間指導計画に沿って各教科が横断的に食育教育に取り組み、健康への意識を高める。
担当	保健体育科、保険安全指導部、家庭科	
公開	地域連携	①3校合同の学校運営協議会を有効活用し、小中9年間で育てる子ども像の共通理解を深める。 ②中学生の地域行事への積極的参加を促すとともに、ホームページ等で教育活動の情報発信に努める。
担当	PTA・地域連携部、学校運営協議会	
いじめへの対応		①定期的にいじめ防止研修を行うことで職員の感度を磨き、生徒の観察・教育相談・生活アンケート等を実施する中で、細かな変化を見逃さない体制をつくる。 ②学年連絡会やいじめ防止対策委員会において、情報共有や解決に向けた支援策を組織的に検討する。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①それぞれのキャリアステージに応じた目標を設定するとともに、各種研修会への積極的参加を促す。 ②一人ひとりのライフプランに合わせた働き方を推奨し、教職員相互で支え合う風土を持続させる。
担当	学校経営会議	
自分づくり教育(キャリア・総合)		①職業講話・職場体験・進路選択の3本柱を中心に、将来をよりよく生きるための資質・能力の向上を図る。 ②校外学習に環境教育の視点を取り入れることで、持続可能な社会の担い手としての生徒の育成を図る。
担当	総合指導部	
特別支援教育		①特別支援教育委員会を中心に、生徒情報の共有や支援の方向性を検討し、全職員での支援を継続する。 ②特別支援教室の運営を人的・物的両面から検討し、持続可能な支援体制を構築する。
担当	特別支援教育委員会	
情報化教育		①GIGAスクール構想を理解し、端末の操作や授業実践でのスキルアップを図ることで授業力向上を目指す。 ②溢れる情報から必要なものを選択する力や、ネット社会での情報モラル教育の充実を図る。
担当	ICT指導部、事務・管財部	
担当		